



[今月の聖書]

C1805 『人生の訓練』

それから、イエスは皆に言われた。「わたしについて来たい者は、自分を捨て、日々、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。自分の命を救いたいと思う者は、それを失うが、わたしのために命を失う者は、それを救うのである。人は、たとえ全世界を手に入れても、自分の身を滅ぼしたり、失ったりしては、何の得があるのか。」
(ルカ 9:23-25)

「万物の終りが近づいている。だから、心を確かにし、身を慎んで、努めて祈りなさい。何よりもまず、互の愛を熱く保ちなさい。愛は多くの罪をおおうものである。」 (I ペテロ 4:7-8)

「人の歩みは主によって定められる。主はその行く道を喜ばれる。たといその人が倒れても、全く打ち伏せられることはない、主がその手を助けささえられるからである。」 (詩編 37:23-24)

こういうわけで、わたしたちは、このような多くの証人に雲のように囲まれているのであるから、いっさいの重荷と、からみつく罪とをかなぐり捨てて、わたしたちの参加すべき競走を、耐え忍んで走りぬこうではないか。信仰の導き手であり、またその完成者であるイエスを仰ぎ見つ、走ろうではないか。彼は、自分の前におかれている喜びのゆえに、恥をもいとわないう十字架を忍び、神の御座の右に座するに至ったのである。あなたがたは、弱り果てて意気そそうしないために、罪人らのこのような反抗を耐え忍んだかたのことを、思いみるべきである。あなたがたは、罪と取り組んで戦う時、まだ血を流すほどの抵抗をしたことがない。また子たちに対するように、あなたがたに語られたこの勧めの言葉を忘れて、／「わたしの子よ、／主の訓練を軽んじてはいけない。主に責められるとき、弱り果ててはならない。主は愛する者を訓練し、／受け入れるすべての子を、／むち打たれるのである。」 (ヘブル 12:1-6)

お元気でお過ごしでしょうか？今月のテーマは「人生の訓練」です。20年程前にも取り上げましたが、只今毎週の礼拝と共に取り組んでおります。米国ホイートン大学学長であったレイモンド・エドマン博士が学生たちに残した31の講義でした。「主は愛する者を訓練し、受け入れるすべての子を鞭打たれるのである。」(ヘブル 12:6) 人は生まれ育ったままで神に喜ばれるような生き方ができるのであるだろうか。例え洗礼を受けてクリスチャンとなっても、襲いかかる試練に立ち向かい、正しい判断を下し、苦しくても平安な心で日々を過ごすことができるだろうか。それには聖書の言葉を蓄え、祈りを重ねていく信仰の訓練が必要です。すぐには解決しない問題を忍耐を持って待つ訓練が必要です。丁度北朝鮮問題が話題となっていますが、ミサイルが飛んで来るとしたら、膨大な費用をかけても迎撃装置が必要です。神は私たちの信仰を強靱で安定したものになりたいと願っています。あまりにも軟弱で、行き当たりばったりのクリスチャンしかいないのであれば、いかに聖書が優れていても、教会は壊れ物のような存在になってしまいます。人生というキャンバスにいかに価値ある絵を描くかが問われているのです。「母の日」を迎え、代々の優れた母たちは筋金入りの愛を示したからこそ、祝われるのだと思います。

神の祝福をお祈り致します。

(お知らせ)

* 地区集会のご案内

5月8日(火) 13:00 CFI 横浜集会 (福音喫茶メリー TEL 045-231-6773)

5月16日(水) 11:00 CFI 賛美の集い (自由が丘チャペル)、14:00 ジョイコーラス

* 5月31日(木) 13:00 CFI 関西集会 (日本聖公会大阪聖パウロ教会 北区茶屋町2-30 TEL06-6371-0170
お問い合わせ 水野初江 090-3827-7954、鈴木能子 090-1223-5284)

* 6月5日(火) 13:00 CFI 千葉集会 (千葉東天紅 千葉駅前そごう隣センシティタワー23階
TEL 043-238-5555 お問い合わせ 下山真知子 090-2632-0720)

千葉集会は皆様の強い要望で2月4月6月9月11月年五回を目標に集会を持つことになりました。

* 5月17日(木) 11:00-17:00 バイブルアカデミー (自由が丘チャペル、受講料1回3000円)

* 5月11日(金) 19:00 東日本大震災復興支援超教派一致祈祷会 (淀橋教会)

* 9月1日(土) 13:30「メサイア 2018…紀尾井ホール」今年の防災の日に、大震災復興支援コンサートを再度開催することになりました。小田牧師は一度感謝終了を宣言したのですが、強い要望と生駒音楽事務所が主催する提案によって新体制で開催する運びとなりました。「信仰告白としてのメサイア」を成功させていただきたいと願ってお祈りをよろしくお願いいたします。

わたしには安心がなかった。

(第二コリント二・一三 英訳)

心から期待していたことが痛々しい敗北に終わり、心はずむ思いでいっていた高い幸福な希望が無残にもふみにじられ、心に描いていた甘い夢が破られたときの失望状態——あの深い暗い陰気な落胆から来る失望状態——を、一度も味わったことのない人がいるだろうか。

私たちは、そういう結果になるように初めから計画していたわけではない。私たちは、偽りを言わず喜んで建設的に協力する、真に信頼できる友人や助け手が必要としていたのに、彼らは私たちに裏切った。与えられた仕事を全うするために健康なからだを必要としていたのに、私たちの力は哀れなほど貧弱であった。神の栄光をあらわす価値あるゴールに到達するために豊かな資力が必要であったのに、私たちの資力は悲しくなるほど不十分であった。奨励と熱意を必要としていたのに、私たちの受ける唯一の報いは痛烈な批判か、あるいは作偽的な冷淡さだけであった。私たちは人の約束を信じたが、それは一陣の風のようにたよりないものであった。私たちは利益を受ける代わりに苦痛を刈り取った。こうして私たちは失望の底に沈んだ。

幻滅、絶望、敗北、下劣な自己憐憫などは、失望した魂を満足させたり、いやしたりはしない。ただ前進することによってのみ満たされ、いやされる。使徒パウロの経験はそのすばらしい実例である(第二コリント二・二一—二四)。彼は古い町のトロアス(トロイ)でテトスに再会できるものと思っていたが、テトスは姿を見せなかった。その理由は示唆されていない。ただ、パウロは心を安んずることができなかったと書かれている。このような失望に対して、彼はどうしたか。前進したのである。至高なる神は「いつもわたしたちをキリストの凱旋に伴い行き」たもうという確信ゆえに感謝して、前進したのである(一四節)。

感謝の心は助けをもたらす。感謝の心を持つ者は、信仰生活における訓練だけでなく数多くの勝利を思い起こし、多くの危険だけでなくみことばの中の多くのお約束を思い起こす。パウロは、さまざまな環境において感謝した。命が脅かされるようなあらゆるのさなかにあって、食物と隠れ場のために感謝した(使徒二七・三五)。遠い地にある忠実な兄弟たちのために感謝した(ローマ一・八、第一コリント一・四、ピリピ一・三、その他。何にもまさって、言い尽くせない神の賜物、主イエス・キリストのゆえに感謝した(第二コリント九・一五)。それでこそ、彼は、すべてのことについて感謝するように(コロサイ三・一五、エペソ五・二〇)、特に祈りにおいて、自分の求めるところを神に申し上げるときに感謝するように(ピリピ四・六、コロサイ四・二)と、私たちに強く迫ることができたのである。神の多くの恵みを感謝する心こそ、人間の失望という苦さによってではなく、神の御霊の甘美さによって味つけられる。

神を見上げます

私に欠陥のあるときは

いつもあなたを見上げます

見上げてむだだったことはありません

あなたの強く優しい愛に触れ、再び力を得ます

あなたを思いめぐらしているときに

罪や苦痛や悲しみに打ち勝つ力がわくのです

人生の仕事に絶望し

背に負う重荷に耐えかねて

失敗や恐れを受け

力なく道ばたにすわり込んでしまっています

しかし主よ、あなただけを思わせて下さい

そのとき、新しい力がわくのです

落ち着かない心を静めるために

あなたの静けさが、私の心をおおいます

よろめいている私の意志を強めるために

あなたのいのちの力が包みます

あなたのご臨在が寂しさを慰め

あなたのご摂理がすべてを益に変えるのです

あなたの深い愛にいだかれて

あなたのおきてにささえられて立つのです

すべてのことの中に、あなたの御手を見ます

御手の中に、すべてのものが動きます

あなたは暗いときに私を導かれ

悲しみを賛美に変えて下さるのです

サムエル・ロングフェロー

人生の訓練

● V.レイモンド・エドマン 著 / 海老沢良雄 訳

THE
DISCIPLINES
OF LIFE
V. RAYMOND EDMAN